

2004年度(平成16年度)第2回常務理事会記録

日時：2004年(平成16年)3月22日(月)11:00~13:55

場所：八重洲倶楽部第10会議室

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、高田邦昭、山科正平(以上常務理事)、依藤宏(幹事)、小森雄一郎(学会事務センター)

欠席者：柴田洋三郎(常務理事)

.会議記録の確認

2004年度第1回常務理事会記録(案)及び同摘録(案)

.報告事項

1.庶務報告(高田庶務担当理事)

1) 会員異動報告(正会員2,263名 2003年1月31日現在)

2003年1月分 入会者 正会員4名 学生1名 退会者 正会員22名 学生2名 賛助1社 団体1団体 住所変更等 15件

2) 逝去会員

中井準之助氏(東京大、筑波大名誉教授、元浜松医科大学長/名誉会員)平成16年3月1日逝去(享年85歳)

3) 学会に届けられた文書等

通知等

日本医学会より「日本医学会役員の選挙結果について」及び「平成15年度日本医学会新規加盟学会について」(通知)他3件の通知、挨拶状が届いている。

書籍、定期通信他

日本医学会より「日本医学会分科会総会一覧(2004年)」「第124回日本医学会シンポジウム記録集・肥満の科学」他6件の定期通信等が届いている。

4) その他

平成15年度事業報告

文部科学省に提出する平成15年度事業報告書に関して、報告が行われた。

平成15年度各種委員会活動報告

標記の件につき、報告が行われた。尚、解剖体委員会、情報技術委員会については報告が未だ届いていない。

解剖実習室の環境とプラスティネーションについての文部科学省からの問い合わせ

せ

文部科学省医学教育課より学会に対してホルマリンによるシックハウス症候群との関連で実習室の環境、および解剖実習をプラスティネーション標本で代替することについての可能性の問い合わせがあった。至急の返事を要するとのことで庶務担当理事が対応したが、この件については解剖学会としての公式見解を用意しておいた方がよいと判断され、解剖体委員会に諮問するよう理事会に提案することが決定された。

その他

- a. 山形大 相原功技術専門官が第 16 回人事院総裁賞を受賞した旨、報告があった。
- b. 文部科学省の「遺伝情報の再生医療における利用についてのアンケート」が 3 月 25 日締め切りで届いた。これについては庶務担当理事が返事を作成することになった。
- c. 外国における「プラスティネーション用遺体に関する疑惑」、「献体された医学教育用遺体の流用」等に関する新聞報道が紹介された。
- d. 学術会議改組のスケジュールについて説明がおこなわれた。
- e. 新聞に報道された(財)日本学会事務センターの関連会社((株)学会ユーティリティセンター)の横領事件に関し、学会事務センター小森氏よりお詫びとその後の同社の経営状態についての説明があった。

2. 編集報告(欠席の柴田編集担当理事に代わり、事務局小森氏が報告、山科理事が追加)

1) 平成 15 年度学会誌刊行状況について

和文誌については予定よりページ数が増え、その分経費増となっていること、英文誌は定額制であるが待機中の論文が増えてきているとのことである。これらの点をふまえ、雑誌の見直しも必要との意見が出された。

3. 企画・渉外報告(河田企画・渉外担当理事)

1) 第 16 回国際解剖学会議(2004 年度開催)準備状況報告

シンポジウムの会場、時間の割り振りの大枠が決まり、今後、日本解剖学会総会委員会、各種会合をはめ込んでいく作業をしていく予定であること、学術会議との合同幹事会で皇室のご臨席への対応が話し合われたことなどが報告された。

2) 日本医学会定例評議員会報告

標記評議員会において日本医学会会長に高久史磨氏が、副会長に岸本忠三、小泉明、

出月康夫氏が選ばれたこと、医学会総会は 2007 年は大阪で開催され、2011 年は東京が予定されている等の報告がなされた。

4. 会計報告（山科会計担当理事）

1) 平成 15 年度決算報告

昨年 12 月の理事会報告の後、A S I 一号分の刊行代金が未払いであることが判明し、平成 15 年度決算は単年度では 971,851 円の赤字に、昨年度からの繰越金を入れても 42,626 円の赤字となることが明らかになった。この決算内容の説明と決算に関する内山、上田両監事ならびに公認会計士による監査結果の報告がおこなわれた。

審議事項

1. 平成 17 年度科学研究費審査委員候補者推薦について

標記候補者推薦委員会作成の候補者リストをもとに第一段、第二段の割り振りをおこない、常務理事会案を作成した。

2. 2004 年（平成 16 年）度奨励賞選考委員会編成について

奨励賞規約に基づき、候補者案が作成された。

3. 平成 16 年度永年会員推薦について

原案が承認され、理事会に諮られることになった。3 月 19 日現在推薦受諾の可否について返事のない有資格者については支部長から受諾を勧めるよう依頼することが決定された。

4. 平成 16 年度予算一部改訂及び財政改善のための方策について

前記の会計報告を受け、平成 16 年度予算の改訂案及び財政改善のための方策が提案され、審議の結果、理事会に諮られることになった。

5. 「解剖学用語集」の出版について

医学書院との出版に関する覚え書き（案）、著作権契約書（案）ならびに坂井建雄用語委員会委員長よりの 2004 年度事業計画案が提示され、審議の結果、了承、理事会に諮られることになった。

6. 学術集会のあり方について

学術委員会の中問答申に対する第 110 回総会・全国学術集會会頭大谷修教授の意見書が提示され、それをもとに審議がおこなわれた。その結果、大谷教授の意見書を学術委員会に戻し、最終答申をとりまとめてもらうことが決定した。

7. IFAA 等について（この件に関しては第 16 回国際解剖学会議組織委員長井出千束教授の陪席のもとで審議がおこなわれた。）

5 カ月後に近づいた国際解剖学会議に向けて、IFAA への対応、日本解剖学会としての受け入れ態勢等について話し合いがおこなわれた。

8 . 次回常務理事会日程について

6 月 19 日（土）に開催することに決まった。